

# 付 録

## 従来の方法による全国地震動予測地図 2012 年版

### 目 次

#### 確率論的地震動予測地図

長期評価の経緯と確率論的地震動予測地図の作成条件-----	36
今後 30 年間の確率(平均ケース・全地震) -----	53
今後 30 年間の確率(平均ケース・地震カテゴリー別)-----	54

#### 震源断層を特定した地震動予測地図

長期評価の経緯と震源断層を特定した地震動予測地図の作成条件-----	57
石狩低地東縁断層帯主部 -----	60
石狩低地東縁断層帯南部 -----	64
新庄盆地断層帯東部 -----	66
新庄盆地断層帯西部 -----	68
中央構造線断層帯金剛山地東縁区間 -----	70
中央構造線断層帯和泉山脈南縁区間 -----	72
宮古島断層帯中部 -----	74
宮古島断層帯西部 -----	76

- ※ 本書における地震発生確率と地震動超過確率は、2012年1月1日時点の評価値である。
- ※ 本書に掲載した地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（空間データ基盤）及び基盤地図情報を使用した。（承認番号 平24情使、第485号）
- ※ 本書では、日本測地系を使用した。
- ※ 本書に示した行政界は、2012年1月1日時点のものである。
- ※ 日本領土のうち、南鳥島と沖ノ鳥島では、計算に必要なデータが整備されていないため、地図を作成していない。
- ※ 確率論的地震動予測地図の作成に必要な地震発生確率を計算する際に、主要活断層帯の「平均活動間隔」や「最新活動時期」が用いられるが、それらの評価結果に幅がある場合が多いため、主要活断層帯については両者の中央の値を代表値として地震発生確率を計算する「平均ケース」に加えて、評価された確率の最大値を用いる「最大ケース」を考え、両ケースの地図を作成した。活断層はカテゴリーⅢに含まれるので、「最大ケース」のカテゴリー別の地図はカテゴリーⅢの地図のみ（カテゴリーⅠとⅡの地図では「平均ケース」と同じ）となる。
- ※ 震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地図）は、2010年1月～2011年12月に公表された主要活断層帯に関する長期評価のうち、評価の一部改訂により断層の位置・形状に変更があったもの及び新規に公表された、合計4断層帯について掲載されている。その他は2009年版の別冊2あるいは2010年版の地図編に掲載されている。
- ※ 三陸沖から房総沖にかけての地震活動の長期評価（第二版）の内容を可能な限り反映させた。
- ※ 長期評価の改訂を反映させた確率論的地震動予測地図の時間軸の起点は、2012年1月とした。
- ※ 三陸沖北部から房総沖「以外の」海溝型地震の地震活動モデルは、従来のものから変更していない（1年間時間経過した分だけの確率値の更新のみ反映）。
- ※ 主要活断層帯の地震活動モデルは、2011年12月までに公表された改訂のみ反映することとし、東北地方太平洋沖地震による地殻変動に伴う活動性の変化は考慮していない（時間経過分だけの確率値の更新のみ反映）。
- ※ 主要活断層帯以外のその他の活断層のモデルは、従来のものから変更していない。
- ※ 震源断層をあらかじめ特定しにくい地震の評価に用いる震源データは、2009年末までのものとした。震源断層をあらかじめ特定しにくい地震の最大マグニチュードの値は、東北地方太平洋沖地震の影響を受けている太平洋プレートの領域を除き、従来のものから変更していない。
- ※ 地震動評価のモデルは従来のものから変更していない。
- ※ 地震調査研究推進本部では想定東海地震、東南海地震、宮城県沖地震を対象とした「長周期地震動予測地図 2010年試作版」、南海地震（昭和型）を対象とした「長周期地震動予測地図 2012年試作版」を公表している。その成果も併せて御覧頂きたい。